

支援事例②（従業員・役員承継）

匠の技術を次の世代へ

■株式会社三創楽器製作所

住 所 静岡県浜松市東区北島町789

業 種 チェンバロ等弦楽器製造

代 表 者 代表取締役 岩上 勝

H P <https://sansogakki.com>

■事業の概要

チェンバロなど古典楽器の製造メーカー。チェンバロはピアノの原型ともいわれ、ピアノが打弦楽器なのに対し、弦を弾いて音を出す。国内でチェンバロを製造しているのは当社のみ（個人工房除く）。コンピューターを一切使わず鉛筆1本で図面を描き、材料となる木材の選別、設計、1000点以上あるパーツ加工、組み立て、完成品までを全て手加工で一貫生産している。

（注 岩上社長は「浜松ものづくりマイスター」「しずおかの匠」に認定され、2019年には春の黄綬褒章を受章している）

■経営を引き継いだ経緯は？

当社は、1985年に東海楽器製造（株）からチェンバロ部門が独立し、創業しました。私は、故郷石川県で木工技術を学び、浜松の東海楽器製造に入社しましたが、27歳の時に当社へ移り、チェンバロ等を製作していました。その後、創業者が他界し、（株）河合楽器製作所出身の現取締役会長（富田勝彦氏）が事業承継しましたが、会長も高齢となり、私が事業を引き継ぐこととなりました。

（注 現会長が2013年に支援センターに相談、2016年に岩上氏が社長に就任している）

■経営者となり気付いた点、苦労している点

社長になる前から、工房長として設計から、部材の調達、製造まで全てを任されていたので、技能の継承は必要なく、経営者になったからといって特に変わった点はありません。今まで同様、良いものを時間をかけて作り、細く長くやっていきたいと考えています。

苦労している点は人材育成です。日本の教育制度に起因するかもしれませんが、今の若者は安定志向が強く、自分の得意分野を活かし、尖った仕事を求める人材が少なくなっている気がします。そのため、現在日本各地で後継者不足により職人が職を閉じている状況です。

当社の楽器製作は分業ではなく、一人で製品を完成させる会社です。この醍醐味は、大企業では味わえません。

後継者育成は時間がかかるものですが、私が見える時間も無限ではありません。技術を絶やさないとすることは、イコール会社を継承していくことに繋がることだと思います。

若者が職人技術に目を向けてくれることを願うばかりです。

■今後の豊富は？

社名には「人づくり、ものづくり、夢づくり」の三つの「創る」が込められています。職人を育て（人づくり）、育てた職人が楽器を作り（ものづくり）、その楽器を演奏する奏者や、演奏を聴いた人々に夢や感動を与える（夢づくり）……。そのような創業者の想いを次世代につなげていけたらと思います。

■承継年表

1985年	（株）三創工芸（故）鈴木次雄氏設立 岩上勝氏（現社長）入社
2008年	富田勝彦氏（現会長）社長就任 （株）三創楽器製作所に社名変更
2013年	現会長が支援センターに相談
2016年	岩上勝氏社長就任



岩上 勝 社長



ライアー



チェンバロ